

1. 地方拠点都市地域の基本目標と地域概要

(1) 基本目標

『からつ・とうまつ高感度高流都市』

大都市や中枢都市からの人・産業・情報の流れを起し、新たな地域の力の醸成を図り、人々に好感をもたれ新しい刺激に敏感な都市として、歴史にみる情報先端地域としての復権を目指したレベルの高い交流を演出する新生活文化都市圏を形成する。

当地域は、玄界灘に面する佐賀県北部地域に位置し、美しく変化に富んだ自然と大陸との交流の歴史を背景に、農林水産業をはじめとする産業や伝統的な地域文化が育ち、経済社会面では県都佐賀市を中心とする県南部地域と対極を成して唐津市を中心とした独立した都市圏を形成してきた。

中心都市の唐津市は佐賀県北部の拠点として県第2位の人口規模を有し、わが国のなかで大陸に最も近い立地条件にあり、古来より大陸との文化交流、交易の拠点として栄え、現在は行政、経済、文化、教育等の都市機能の中心となり、地域全体へ就業機会を提供している。こうした中で、東京圏への一極集中だけでなく近接する中枢都市福岡市の九州内における都市機能の一極集中もあり、西九州における都市機能、産業機能の集積など総合的な拠点性や相対的な地位は年々低下し、当地域全体の活性化が問われていた。

しかし、近年、鉄道は福岡市との間が電化し、さらに福岡空港まで地下鉄との相互乗り入れによる直結がなされ、また、高規格幹線道路の西九州自動車道の整備着手や国道202号、204号、特に唐津佐賀間の203号等主要幹線の整備をはじめ、道路ネットワークの整備拡充により唐津市を中心に地域全体において高速交通体系との連携が強化され、都市成長のポテンシャルが高まっている。

こうした中で、アジア大陸と古くから交流を持ち、先端的な地域として発展してきた当地域が、新しい生活文化都市として復権するためには、唐津市の中心都市としての拠点性を高め、地域全体を交通・情報ネットワークで結

び総合的な都市環境を整備するとともに若者の就業意欲を刺激する産業を育成する必要がある。

そのためには、西九州自動車道等の交通体系を有効に活用し、新たな産業集積、都市機能集積及び居住機能の集積を促進するとともに、港湾部の高度利用、観光・リゾート拠点としての整備、交流・文化施設の整備などを推進し、大都市や中枢都市から人・産業・情報が流入しやすい都市空間、生活空間を整備する。

また、当地域が地方拠点都市整備により都市成長のポテンシャルを高め、自立的な発展をしていくことは、若者を中心とする人口流出の抑制と地域経済の振興をもたらし、佐賀県の均衡ある発展に資するとともに、東京への一極集中や九州における福岡への一極集中の是正に役立ち、九州の重要拠点地域としてわが国の多極分散型国家形成にも寄与することとなる。

(2) 地方拠点都市地域の概要

① 地方拠点都市地域の名称

唐津・東松浦地方拠点都市地域

② 中心都市名

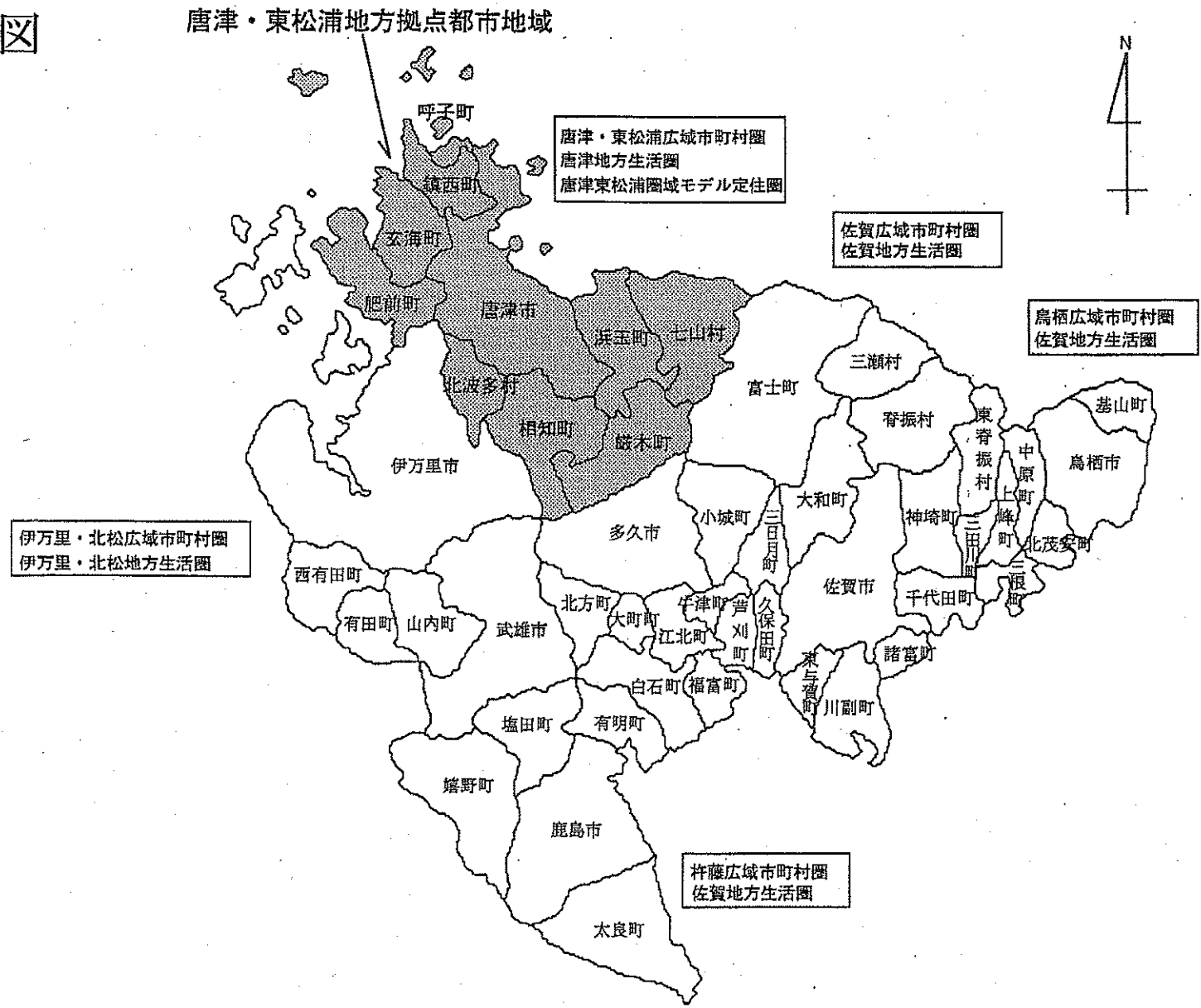
唐 津 市

③ 構成市町村名と概要

| 市 町 村 名 | 人口 (人) (1990年) | 人口増減率 (%) (1985~1990年) | 面積 (km ²) |
|-------------------|-------------------|---------------------------|-----------------------|
| 唐 津 市 | 79,207 | 0.6 | 127.4 |
| 浜 玉 町 | 10,224 | △ 1.6 | 52.1 |
| 七 山 村 | 3,125 | △ 3.0 | 62.9 |
| 巖 木 町 | 6,854 | △10.6 | 61.2 |
| 相 知 町 | 9,752 | △ 5.1 | 65.1 |
| 北 波 多 村 | 5,199 | △ 1.1 | 26.6 |
| 肥 前 町 | 10,551 | △ 3.7 | 46.7 |
| 玄 海 町 | 7,515 | △ 1.4 | 36.0 |
| 鎮 西 町 | 7,971 | △ 4.2 | 37.9 |
| 呼 子 町 | 7,005 | △ 3.0 | 7.2 |
| 10市町村 (1市7町2村) | 147,403 | △ 1.5 | 522.9 |

資料：国勢調査（昭和60年及び平成2年）、国土地理院（平成2年）

④ 位置図



⑤ 圏域図

